

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

| | | |
|---------|----------|------------|
| 団 体 名 | 株式会社うりんこ | |
| 施 設 名 | うりんこ劇場 | |
| 助成対象活動名 | 普及啓発事業 | |
| 内定額(総額) | 1,727 | (千円) |
| | 公演事業 | 0 (千円) |
| | 人材養成事業 | 0 (千円) |
| | 普及啓発事業 | 1,727 (千円) |

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----|-----|--------|------------------------|----------|--|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | |
| 1 | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| 2 | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----|-----|--------|------------------------|----------|--|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | |
| 1 | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| 2 | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----|--|----------------------------|---|----------|-----|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | 絵本からはじまる子どもとおとなのためのホットタイム | 9月1日～2月4日 各会場3回～5回 | 講師 朝比奈 緑・川原美奈子 絵本の読み聞かせ・語り聞かせ・ワークショップ | 目標値 | 700 |
| | | うりんこ劇場・学区コミュニティセンター 他 | | 実績値 | 214 |
| 2 | 0歳から2歳未満の子どもとその家族のための体験の芸術 BabyTheater による、社会包括の仕組みづくり | 11月8日、11日、12日、16日、30日 | ベイベーシアター『まるまる』 演出：うりんこ劇場 出演者：朝比奈緑、川原美奈子、浅野加織（ピアニスト） | 目標値 | 150 |
| | | うりんこ劇場、宮根保育園、星ヶ丘保育園 他2園 | | 実績値 | 113 |
| 3 | こどもとみんなつながりはぐくむうりんこ広場プロジェクト | 6月9日～3月23日 うりんこ劇場 | <p>○子育て支援びよびよサークル 6/9～3/23 対象者：未就園児 スタッフ：子育て支援グループわくわく未就園児対象に1年を通して、子どもの発達、季節に合わせた体験活動プログラム。</p> <p>○ベイベーシアター出合いの7日間 10/26(月)～11/2(月) 出演者：朝比奈緑 川原美奈子 ベイベーシアター『MARIMO』体験事業を7日間開催。</p> <p>○うりんこっこ秋のシアター 9/20(日) ちょろりんのすてきなセーター9/21(月) うたうしじみ 9/22(火) ドングリ山のやまんばあさん 出演：劇団うりんこ、対象者：乳幼児とその保護者。乳幼児を持つ親たちのための特別な3日間</p> <p>○みんなの発表会 in うりんこ 9/22(火)～9/28(月) スタッフ：NPO芸術の広場ももなも 自分もやってみたい、という気持ちになったお客さんが主役。</p> <p>○うりんこっこ秋の音楽 11/14(土)11:00/ 14:00 対象者：子どもから大人 出演者：kajii スタッフ：NPO芸術の広場ももなも</p> | 目標値 | 650 |
| | | | | 実績値 | 492 |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

絵本からはじまる子どもとおとなのためのホットタイム

0歳から2歳未満の子どもとその家族のための体験の芸術 BabyTheater による、社会包括の仕組みづくり

こどもとみんなつながりはぐくむうりんこ広場プロジェクト

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

うりんこ劇場は「子どもたちが自分自身に誇りを持ち、生き生きと創造的に生きていける社会」をミッションに掲げ、1 舞台芸術の共有体験を通して、子どもを中心としながら、子ども同士、親と子ども、親同士が結びつきを高め、心豊かで安心安全な地域を形成する、2 表現活動を通して、子どもたちの、自尊心、信頼、コミュニケーション力、協調性、やり抜く力を養い、現代が抱える様々な課題を解決する豊かな人材を育て地域に還元する為の活動を行っている。

当館の地域は、毎年人口の 15%から 20%の転出入者、その 6 割以上が市外からという流動人口が多くかつ子育て世帯が多い区です。子どもを中心として人がつながることで安心して豊かに暮らせるよう、0 歳から大人まで対象年齢に合わせた企画が提供できるような取り組みを行っている。

全ての事業において新型コロナウイルス感染拡大予防対策を徹底した。

「絵本からはじまる子どもとおとなのためのホッとタイム」は、会場の広さに応じ参加者の人数をおや子 3 組～7 組に制限し、うりんこ劇場では開催回数を増やした。開催時間を短縮し、換気のために窓を開放したままにした。子ども達の安全確保のためスタッフを増員して対応した。あらかじめホームページ等で安全対策を公開し、参加者にも感染拡大防止の取り組みへの協力を得た。

「まるまる」は 1 ステージ親子 3 組 6 名程で、ソーシャルディスタンスを確保できるスタイルで会場も換気が出ることを優先に設定し、演出効果を考えなおし上演した。

「うりんこっこ秋のシアター」は 6 月開催予定から日程を変更して 9 月へ、「ベイベーシアター出会の 7 日間」は 6 月から 10 月～11 月へ日程変更をした。定員を制限、ステージ数を増やして実施した。

「うりんこっこ秋の音楽」では出演者に事前に YouTube 動画を撮ってもらい、オンラインでの広報をした。また、しょうがいを持つ子どものためのステージでは声を出したり動いたり、子どもがどんなリアクションをしても、気兼ねなく楽しめるよう安全と気配りができる経験スタッフを配置した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

助成を受けることでコロナ禍において安全の配慮、スタッフの増員、参加者人数を制限して実施することができた。アンケートでは 100%の保護者が内容全体に満足し、99%がリラックスできたと回答した。また、子どもや自身を客観的に見ることが出来き、日々の子育てにゆとりが持てたと読み取れる。またその場限りの取り組みでなく、3 回以上のプログラムで取り組めたことも大きい。人と会うことが不安になっていた参加者一人一人の変化を見守り、参加者自身が子育てに肯定感がもてるように出来た事、親同士、関係施設担当者とのつながりが出来た事は、悩みを一人で抱えない地域で見守る子育てに繋がったといえる。今後は少しずつ赤ちゃんサロンを開催したいという声もあった。

予算が無くあきらめていた保育園で実現が出来た事は非常に大きな一歩である。参加者や関係者から乳幼児がパフォーマーを模倣する、積極的にかかわろうとする姿など、日常では体験できない多くの出来事に驚きの声が上がっていた。また保育士にとっても学びになるという意見がアンケートで多数みられた。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

●名東区主任児童委員と協働開催 2019 年 1 カ所開催→2020 年 8 カ所開催

→「絵本からはじまる子どもと大人のためのホッとタイム」名東区主任児童委員と協働で 4 カ所開催した。
2021 年は名古屋市主催で 8 カ所での開催が決定している。

●名東区すべての乳幼児 3000 人がベイベーシアター・乳幼児プログラムを体験する。

→「絵本からはじまる子どもと大人のためのホッとタイム」

6 カ所 214 名参加 (2019 年 196 名)

→ベイベーシアター「まるまる」

5 回 5 施設で実施。 113 名参加

2018 年～2020 年の 3 年間で 1 / 4 の乳幼児が体験した。

実施カ所を増やし乳幼児が芸術体験をできる人数を増やす。

2019 年 4 カ所→2020 年継続 4 カ所、新規 2 カ所

新型コロナウイルス感染拡大の影響により学区会場が使用できず断念した。

2020 年継続 2 カ所、新規 3 カ所で実施した。

●子育て中の母親が、子育てに舞台芸術が必要だと感じる。

→参加者へのアンケートにおいて 100%が必要だと回答。

●うりんこ広場プロジェクトにすべての世代が来場する。

→0 歳から 80 代の世代が来場し、各事業を楽しんだ。

コロナ禍での事業は大変有効であったことが認められる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

どの企画も新型コロナウイルス感染拡大予防対策をとり適切な人数に制限して取り組んだ。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により5月末まで休館要請が出たため大幅な日程変更をして計画を進めた。

「絵本からはじまる子どもとおとなのためのホッとタイム」は新型コロナウイルス感染拡大の影響により支援施設が休館、乳幼児向けの事業開催ができない状況が続いた。そのため実施回数8回→4回になった。

2019年度からの継続により名古屋市と協働することができ、共催者負担金を得ることができた。

2021年度は名古屋市主催で開催が予定されている。

「0歳から2歳未満の子どもとその家族のための体験の芸術 BabyTheaterによる、社会包括の仕組みづくり」の「ベイビーシアターまるまる体験」当初は子育て支援施設で子育て親子対象、働く親の子ども対象に開催を予定していた。しかし支援施設が休館

乳幼児向けの事業開催ができない状況が続いたため、保育園への普及活動に当初の計画を変更した。

2019年度からの要望を受けての開催で、予定数よりも多くの申請があり、需要度が高いことが確認された。

打ち合わせにおいて、各園の保育スペースの状況(芸術家と活動する余裕スペースが無い)が様々であること、芸術家招聘予算が無い実情を知る機会になった。保育士があきらめていた芸術家派遣が保育園で実現が出来た事は非常に大きい。発達段階を踏まえた創作アプローチは主催者からも保育の今後の学びになると大きな評価を得た。

「ぴよぴよサークル」は緊急事態宣言時期以外は全て開催した。当初の予定21回中17回開催した。

支援が必要なおやこの受け入れ態勢を整えることができた。

「うりんこっこ秋のシアター」は、6月開催予定から日程を変更して9月に開催した。

「うりんこっこ秋の音楽」では出演者に事前にYouTube動画を撮ってもらい、オンラインでの広報をした。

「みんなの発表会」は会場に来場しなくても発表できるように朗読の録音、動画上映にも取り組んだ。

「ベイビーシアター出会の7日間」は新型コロナウイルス感染拡大予防ため観客数を半分にしてステージ予定を2倍に増やした。

全ての事業において新型コロナウイルス感染拡大予防のためのスタッフを配置した。

事業費は適切であったと判断される。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

「絵本からはじまる子どもとおとなのためのホッとタイム」は会場の広さに応じ参加者の人数をおや子3組～7組に制限、ディスタンスをとってできる効果のある演出を考えた。結果、ダイナミックさも加わり、より立体的、身体五感を使つての活動につながり、表現の幅が大きく広がった。うりんこ劇場では回数を増やし、対象年齢別にわけたことで、より子どもの達段階に即したプログラム作りを考えることができた。

また、動く子どもの人との接触を制約するために、遊びの中でそれを可能にしていく方法などを提案した。子どもたちが自由にのびのび空間を使って活動する姿、保護者が安心して、能動的に参加する姿が見られ、全体として非常に開放感のあふれる時間を提供することができた。コロナ禍で、日々の子育てに、息が詰まりそう、子どもにダメというのがつらい、と感じている保護者にとって、ここでの体験が日常の子育てに心のゆとり、想像力と創造力で乗り越える力を与えたことは、大変大きな評価といえる。

「まるまる」は保育園で実現が出来た事で、劇場ホールから保育園の遊戯室まで様々な空間での上演が可能となり、今後コロナ禍において要望に応じていけるパフォーマンスもとなったことは大きな評価といえる。

「みんなの発表会」はコロナ禍での合唱、朗読の発表の希望があった。新型コロナ感染拡大防止対策をとり、参加者が安全に関われる演出方法を考えた。演技エリアと客席との距離の確保、会場内の人数制限、全ての窓を開放し時間短縮をした。出演者は「コロナの影響で練習会場が会場がなく、練習不足ではあったがこのような発表の場があって嬉しかった。」「このような活動の場は今後も必要である。」との意見があった。また、会場に来場しなくても発表できるように朗読の録音、動画上映にも取り組み、様々な形で地域のみなさんが参加できる発表会にした。その他参加者がより身近な空間に感じられるように、近隣学童、デイサービス等の協力を得て、日常の活動で作成したものを背景等にディスプレイした。

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

「絵本からはじまる子どもとおとなのためのホッとタイム」では、主催者との振り返りで多くの意見交換ができ、主催地域の子育て支援プログラムへの意識が高まったといえる。視察した市の職員の評価も高く、次年度は全中学校学区での開催が決まっている。大きな成果である。少ない人数での実施は、保護者への丁寧な対応ができ、信頼作りとなった。にもつながった。また、参加者同士のつながりも深くなり、子育てする仲間づくりに繋がったといえる。

「ベイビーシアターまるまる」は予算が無くあきらめていた保育園で実現が出来た事は非常に大きな一歩である。参加者や関係者から乳幼児がパフォーマーを模倣する、積極的に関わろうとする姿など、日常では体験できない多くの出来事に驚きの声が上がっていた。多数の保育士が日々の保育の学びになるとアンケートで答えている。

保育園ではこの対象年齢のための事業はまだまだ認知が低い、今後の広がりのきっかけとなる活動になったことは評価できる。また、劇場ホールから保育園の遊戯室まで様々な空間での上演が可能なパフォーマンスにできるようになり、コロナ禍における対応だけでなく、施設ごとの要望に応じていける可能性が広がったことも大きな評価といえる。

地域住民が主役となる「みんなの発表会」では参加者の100%が今後も参加したいと回答した。地域住民が劇場で観客となるだけでなく、演者となる体験ができ、創造の意欲を強めたことは地域文化芸術の発展につながったといえる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

うりんこ劇場は「子ども達が自分自身に誇りを持ち、生き生きと創造的に生きていける社会」を目的とし、子どもと共に、全ての世代が、つながり、育つ劇場をめざして活動をしている。

1 【乳幼児から青少年の為の創造発信事業】 2 【人材養成事業】 3 【普及啓発事業】 4 【公共ホールの連携事業】の柱で事業を展開している。

「絵本からはじまる子どもと大人のためのホッとタイム」、「0歳から2歳未満の子どもとその家族のための体験の芸術 BabyTheater による、社会包括の仕組みづくり」は、0歳から2歳の乳幼児とその保護者が対象である。新型コロナウイルス感染拡大により、施設開放がなされない地域もあり、子育て中の親子は家の中に閉じこめられ、育児ストレスや孤独から起こる暴力や鬱もさらに増している。人と触れ合い、のびのびと過ごせる環境が限られていることは、子どもの知覚感覚の発達、その後の成長に弊害を及ぼすことが心配されている。本事業が持続的に行われることの緊急度、重要度、必要性は非常に高く、望む声も大きい。しかし実施に当たって助成金はなくてはならない。日応対効果出すための再計画を練りながら、持続的活動にするための努力を続けていきたい。

「こどもとみんなつながりはぐくむうりんこ広場プロジェクト」はすべての世代を対象とした。転入してきた若い家族や単身者が多いこの地域に、劇場を拠点とした継続的事业を行うことにより①0歳の子どもから大人まですべての世代が交流しお互いを尊重し合い育ちあえる関係をつむぐ②安心して暮らせる地域づくりを目指す③舞台芸術共有体験、表現活動への参加機会を提供し、利用者同士が劇場で出会い繋がりを深める。ことができた。事業を通じて、劇場に行けば新しい出会いがある、仲間ができる、一人ではない、孤独ではないと感じる広場づくりを今後も持続的に発展させる必要がある。

直接会うことができない方々と双方向のコミュニケーションがとれるように全館光回線の導入をし、ITを活用できるように配備した。

HPを充実させ、オンラインでの対応、情報提供に力を注いだ。SNS運用チームを立ち上げ、プラットフォームの特性を生かし、幅広い利用者それぞれの世代が、より受け取りやすい情報となる宣伝方法を考えている。

月に一度、SNSや後援会員への情報提供をし、事業等の様子を報告している。

全ての事業においてアンケートを実施し、事業内容を数値化した。

名古屋市、名東区の行政機関の子育て支援担当者とは繋がりを、持続的に発展できる協力者を得ることができた。

講座をしたことで持続的に創造的に活動し続ける支援者を得た。

業務分担を明確化し、効率性を高めた。

公益財団法人名古屋市文化振興事業団、名古屋市名東区民生子ども課と連携して事業に取り組んだ。

2021年2月に株式会社劇団うりんここと合併し有益な人材の確保ができた。

活動範囲を広げることができる。

劇場運営において今まで以上に組織的、計画的、持続的に発展することができると認められる。